

『期にふさわしい生活』

— 幼・小の生活や学びの連続性を探る —

1. 研究主題について

本園ではこれまで「期にふさわしい生活」を研究主題にかかげ、幼児期の「生活」を通して、時期時代の発達の課題にふさわしい経験や学びについて考えてきた。

今年度は「幼稚園と小学校の連携」という大きな課題、社会的要請の元、これまで幼稚園の枠組みの中で捉えてきた「生活」と「学び」を、小学校低学年までを見据えた「幼年期の生活と学び」として考え、このような長期の枠組みの中で「生活」や「学び」の連続性を捉えていこうと考えた。

「生活」と「学び」については、下記のように捉えている。

『生活』とは

子どもの『生活』の中には、人・物・自然・時間・空間・社会・文化といった環境がある。人・社会としては、保護者、近隣の地域社会や人、保育者、同年齢・異年齢の友だち、学級集団などがある。そういった環境に自ら心と体を動かして関わっていき、体験を通して経験や知識、知恵として自分の中に取り入れていく、総合的な遊び・活動の姿であると捉える。

『学び』とは

さまざまな体験を通して自分の中に蓄えられた経験・知識・知恵が次の活動や体験に生きて働き、より良い選択と方法・考え・追求と工夫・創造と表現を生み出す過程の中で獲得される新たな経験・知識・知恵であると捉える。

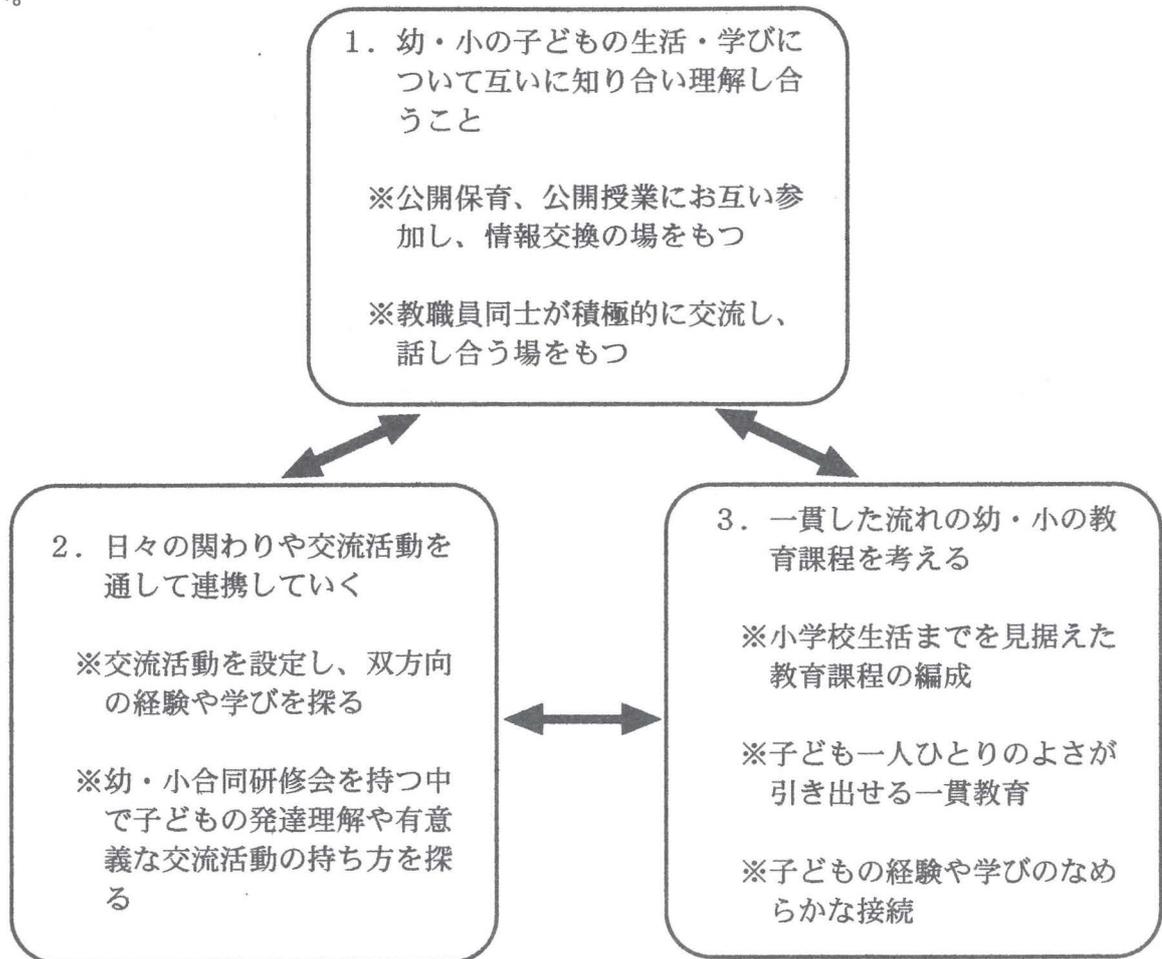
2. 研究の課題について

この研究主題・副主題に迫っていくためには、子ども同士の交流を含めた小学校との連携による教育研究が不可欠である。隣接する島根大学教育学部附属小学校と連携を行う上で、以下の6点を課題としたい。

- ※ 幼・小の教職員同士が交流を通してお互いの教育を認識・理解する
- ※ 校種を越えた異年齢の子ども同士の関わりによって生まれる双方向の経験と教育的意義を探る
- ※ 遊びの意義や、幼年期～児童期への連続性と幼児期・児童期に必要な経験の内容を明らかにする
- ※ 一人ひとりの子どもの成長を長いスパンでとらえ、理解・援助していく（進路保障）
- ※ 幼稚園から小学校へのなめらかな（子どもの自然な発達のみちすじに添う）接続を目指す
- ※ 幼児期から児童期への移行期を見通した子どもの発達の課題に応じた教育課程の編成を目指す

3. 幼小連携のあり方・見通しについて

研究の課題に迫っていくために、以下のような見通しで幼・小の連携をはかっていきたい。



4. 本年度（研究1年次）の研究目標

- 園内の生活や学びを小学校までの長期の連続性の中で見直し、より多面的な視野・視点から成長・発達（心的・知的・身体的）と変容を探る
- 交流活動を設定し、双方向の経験や学びを探る
- 幼・小合同研修会を持つ中で子どもの発達理解や交流活動のねらいと内容・方法を探る

5. 本年度の研究の視点

本年度は研究目標に迫っていくために、本園の教育目標から幼児期に体験を通して培っていくことが望まれる次の3視点について、島根大学教育学部教官8名、附属小学校教官1名と共に「研究プロジェクト」を設け、研究を進める。

視点① 感覚・感性・表現・認識の育ちの過程を探る

- ・感覚・感性を育む体験を大切に

視点② 子どもがめあて（課題意識）をもって遊びを追求し工夫を生み出すための環境づくりを探る

- ・自ら課題をみつけ追求する子どもを育むために
- ・保育者の課題意識・教材研究・環境の構成

視点③ 友だち（同年齢・異年齢）の関わりの中で経験する双方向の内容と育ちを探る

- ・友だちの気持ちをうけとめ、思いやりをもって接していく心情態度を育むために
- ・友だちと関わって遊びを創る力を育むために
- ・幼・小が共有し、共に学びあう活動のあり方を求めて